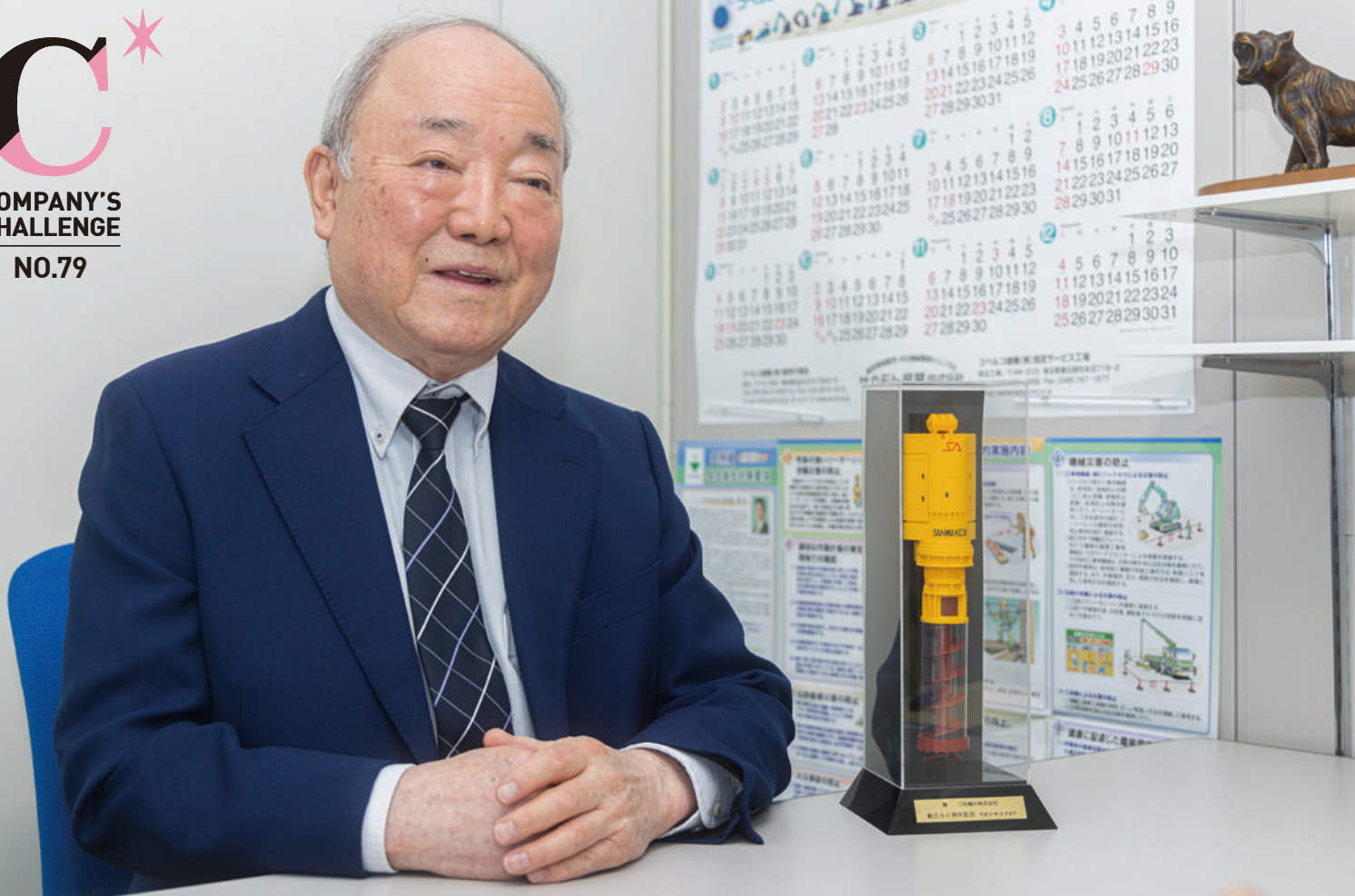




独自工法で事業開拓した草創期を越え 建設業界における課題解決に挑戦

九洲日東(株) 代表取締役社長 榎 博史氏

騒音や振動などの逆風で 独自工法に注目

建築・土木の基礎工事を行い、福岡市中央区長浜に事業所がある九洲日東(株)。1976年の創業以来、基礎工事における技術開発に積極的に関わり、より静かで正確な施工ができるセメントミルクケーシング工法など、さまざまな工法を生み出してきました。これまでに数多くの特許を取得し、文部科学大臣賞や中小企業長官奨励賞を受賞してきたとおり、確固とした高い技術には定評があります。その証拠に福岡県内をはじめ、九州一円において大型建築物や公共施設、マンションなど大規模な現場の基礎工事を請け負っています。

代表取締役社長の榎博史さんは「創業者で父の榎敏男は大阪でこの業界の仕事に携わっていましたが、65歳を超えたときに、故郷である福岡に戻ると同時に九洲日東を設立しました。私も父について福岡にきたのですが、初日から現場に出ていたことを覚えています。また当時の基礎工事の主流はハンマー打撃工法による杭打ちだったため、無振動の工法を売りにしていた私たちは非常に苦労しました」と振り返ります。

それから数年後に転機が訪れました。1978年ごろにはハンマー打撃工法による騒音や振動が問題としてクローズアップ。営業を推し進めていた無振動の工法による施工が注目を集め、公共の工事から民間工事までさま

ざまな現場でのニーズが高まり、業績も上昇気流に乗りました。現在では独自の技術と部材をメーカーの工法と組み合わせ、さらに精度の高い基礎工事の施工に取り組んでいます。

「基礎工事が中途半端だと、建物自体にひびが入ってしまったり、傾いたりして大きな事故につながります。万が一が起きてはならない仕事です。そうした緊張感の中、社員全員が工夫を凝らして施工をやり遂げ、信用を積み上げてきたのが九洲日東の歴史です」と榎さん。

存続と発展をかけて 業界を取り巻く課題に挑む

企業としての存続と発展に向けて、

【プロフィール】

大阪府生まれ。建設関連企業等で経験を積んだ後、父の敏男さんが故郷の福岡で創業した九洲日東(株)に入社。1993年には先代の跡を継ぎ、代表取締役社長に就任した。



1 基礎工事の現場はダイナミックだ。オーガスクリューで掘削する穴は、数メートルから50メートルを超えるという

3 業界一筋の叩き上げと異業種からの人材が融合しているからこそ、九州日東はチャレンジが続けられるのだという。写真は経営陣の4人。

2 社員全員が集まった「対話の場（安全大会）」。仕事・技術に対する姿勢やコミュニケーション、人材育成などさまざまなアイデアや意見が飛び交った

4 会社を支えるバックオフィスのメンバーも充実している九州日東。生き生き働く女性メンバーのチームワークは会社の強みと話す榎さん

新たな取り組みにも前向きにチャレンジする九州日東。そのひとつが雇用問題です。建設業界は職人の高齢化に伴い、技能者が年々減少。きつくて大変な仕事というイメージが先行してしまい、これまで中途採用が中心となっていたところ、九州日東では他業種からの未経験者の採用にも力を入れています。その証拠に、現在経営に携わる取締役の吉田竜之助さん、榎さんの息子である真一さんは実際に異業種から建設業界へと転身してきた人材です。

「建設業界は皆さんがイメージしているような激しい肉体労働の仕事ではなく、道具や重機などを使って工事を行う技術職」と話すのは、家電の販売などに携わってきた吉田さん。また真一さんは行政で広報・まちづくりに携わり、ベンチャー企業や大学機関での勤務を経験。「職業にイメージはつきものですが、飛び込んでみないとわからないものもたくさんあります。業界のイメージアップに貢献できるような働きがいのある職場・モデルケースを作っていきたいですね」と語ります。また九州日東では他業界で人事の仕事を担当していた女性社員を採用。働きやすい環境づくりや人

材育成の仕組みづくりを進めています。

時代の変化に強い会社づくりを目指して

九州日東は技術の担い手不足以外に、SDGsへの取り組みや産学官連携による技術開発など、時代の変化に適応できる企業づくりを見据えた動きを考えています。例えば事業領域拡大を見越した小型杭打機の導入について、吉田さんは「これまで当社は大型の杭打機しかなかったので、小型杭打機を使う現場には本格的に参入したくてもできませんでした。今後はビルとビルの間のような狭い現場での基礎工事も増えるので、期待が高まります。また燃料の削減などから環境配慮にもつながるのではないのでしょうか」と話します。

もうひとつ特徴的な取り組みとして、社員全員で会社の将来を話し合う「対話の場（安全大会）」の開催が挙げられます。現場の安全に関する情報の共有だけではなく、現場・会社の未来を話す機会として設けられたもので、外部からファシリテーターを招き、社員の意見交換を活性化。さらに社内報

を発行し、この取り組みを内外にPR。この取り組みは、「土木広報大賞2021」の“特別賞”を受賞し、業界内で大きな反響を呼びました。「もともと広報を担当していたので、対話・話し合いを大切にして、社内報を有効に例えば部署間や現場間の垣根を越えた社内外コミュニケーションが高まるのではないかと考えていました」と真一さん。こうして異業種からの新しい風が、時代の変化に強い会社づくりへとつながってきています。

「今後もこのような取り組みを継続して、社員全員で会社を創造していく社風を根付かせたいと考えています」と榎さん。九州日東が挑む次世代の建設事業の構想はまだまだ続きます。

取材日：3月10日



九州日東(株)

〒810-0072 福岡市中央区長浜1丁目3番4号
綾杉ビル北天神7階
TEL 092-711-1055
<https://www.kyusyunitto.com/>